



第三講座で学んだこと  
 今回の講座現地である  
 姥ヶ滝は落差76mなの  
 でその差分を同様に階  
 段を下る必要があるの  
 は自明だが、全く実感  
 出来ていなかっただ自身  
 の甘さも思い知ったの  
 が一番だった。  
 後は噴泉塔と深海の千  
 mと1との違いが水圧  
 による水温差に由来す  
 るとり事等。

私の住んでいる白山市は白山の  
 頂上から日本海まで白山の恵み  
 を受けつづけます。今迄毎日白山を  
 みて今日も比白元気であります。緑持  
 んです。高山植物の宝庫  
 身近で神々しい山です。  
 では白山はどういうか出来たか  
 地下はどうなっているか知り  
 たくて受講しました。手取川の  
 石ころ一つも白山の歴史にか  
 かわっている。蛇谷の噴泉塔は  
 地下深いまぐまの水を熱くする温  
 泉もわかり、白山は今も現役です。

「どっち」  
 百万貫の岩と呼ばれる  
 巨大な石は、  
 一、巨大な火山噴火で  
 流出した溶岩(岩冠)  
 一、日本列島は、ユーラシア  
 大陸の一部が分裂し  
 できたと考えられて  
 います。  
 岩は、その時の置きみやげか、

火山灰が熱を持ってたま  
ま自らの重さで地表の  
岩片をも溶結したところ  
こそ。美濃・飛騨の広  
範囲に同じ種類の岩石  
が見られること。堆積  
物が高温を維持できる  
ほどの大きな火山活動  
がこの地で起こったこ  
とに、あまため地球  
の活動に興味を深めま  
す。

白山は生きている  
白山と手取川が作る  
溪谷は、見事の一語だ。  
姥が滝の雄大な流れ、  
噴泉塔から熱い蒸気が  
出ている、白山が生きて  
いる事が実感できる。  
児童の集団と出会う。  
この年齢で、圧倒的な  
大自然と出会う事の大き  
切さを感じる。この景色  
のかけがえのなさを、  
未来に残してほしい。

親谷の湯と噴泉塔  
大きな力に押されて生  
成された濃飛流紋岩の  
でき方や岩質に触れて  
いたとき三次元的にで  
きる流紋岩との違いも  
なるほどと納得。  
噴泉塔や割れ目から出  
る百度近い熱水を体感  
し、地球の営みを身近  
に感じるこができた。  
した。

蛇谷園地で！

長い長い階段！その先にあるのが「姥  
ヶ滝」に「親谷の湯」、そして、「噴泉塔」。  
どれも何度か訪れているが良い場所だ。  
今回は、噴泉塔の前で、初めて聞く岩  
石の話だった。

白山の土台になっているのは手取層群  
と濃飛流紋岩類である。濃飛流紋岩類は、  
広範囲な火山活動があった証のようなも  
のだ。

マグマが流れるときに、固い石が混ざ  
ったり、それが溜まると下部に熱がこも  
り、部分的に溶けたり、柔らかい所が圧  
力により筋模様になったりと複雑怪奇。  
今回の「はくさん学び舎」では、岩石の  
色々な人生を学ぶことができた。



石については何回お話を聞いてもわからない。もう石を理解しようとしても無理だと何回も思った。

しかし、足元の大地は石でできている。「わからん」石の上に動植物の暮らしがあり人間の暮らしがあるのだから、やっぱり知りたい。

さて、どうしたものか。

### 「厄介な岩石」を前にして

何回となく通過してきても、蛇谷に降りたのは初めてでした。姥ヶ滝や噴泉塔も新鮮な気持ちで見ることができました。この付近は濃飛流紋岩類が広く分布しているとのこと。この岩石は極めて厄介、そもそも火成岩なのか堆積岩なのか、とかく分類したがる分野では避けた対象でした。一連の石の講座に参加し、これまでの志向を転換し、視野をひろげて、白山エリアの成り立ちや熱水を吹き出すこの地がどうなっているのか、石から改めて考える機会を頂きました。